

野の仏さまにおききしました

2023.3.20 (月) NO10

人生の四季と交野の自然とともに生きる

春、花の便りが聞こえる頃になると、心に浮かぶ漢詩がある。

唐代の詩人、劉希夷の詩の一節である。

年年歲歲花相似ねんねんさいさいはなあいたり

歲歲年年人同じからず



交野の春(山頂部の観音岩と山桜)

毎年季節になると、きれいな花が咲く。だが、去年一緒に花を愛でた人は、今年はない。一年の四季は何度も巡ってくるが、人生の四季は一度限りであることを気づかせてくれる詩である。

青春、^{しゅうか}朱夏、^{はくしゅう}白秋、^{げんとう}玄冬・・・中国古代の五行説は人生の四季をこう表現している。
この世に生を得ている人は皆、いずれかの季節を生きているのです。

青春は・・・25歳まで



タンポポとともに



仲間とともに



さくら交野山とともに

朱夏は・・・50歳まで



七夕まつり



滝の清涼



田植え

白秋は・・・75歳まで



実りの秋



豊年祝う秋祭り

玄冬は・・・それ以降と区切っている



初冬の野



雪の寒さにも負けず

村人・・・それに従えば

野の仏・・・現代では朱夏、白秋までは家庭生活を含め現役として社会活動を果たす時期、とっていいでしょう
この時期に大事なことは、因果の法則。

村人・・・因果の法則って

野の仏・・・善きことをすれば善きことが、悪しきことをすれば悪しきことが返ってくる。

だからこそ私たちは勤勉・誠実・丹精を旨とし、謙虚・素直に努め、感謝と感動、知恩・報恩に生きる人生を全うしたい。そこに60代は収穫期、70代は黄金期となる人生が開けると思う。

村人・・・75歳以降は後期高齢者ですか。

野の仏・・・玄冬期である。「玄」には「黒い」の他に、「奥深い、玄妙」の意もある。

この玄冬の時代をどう生きるか。

安岡正篤師の言葉に耳を傾けたい。

「老という文字には三つの意味がある。一つは年をとる。二つは練れる。三つは考と通用して、思索が深まり、完成するという意味だ。老いるとは単に馬齢を加えることではない。

その間に経験を積み、思想を深め、自己・人生を完成させてゆく努力の課程でなければならない」
さらに言う「古来医学の専門家は、人間いくら年をとっても、否年をとるほど、学問や芸術や信仰に情熱を抱き続けることが不老の秘訣であることを切論している。

学芸、信仰、事業などに感興を失わず、情熱を抱き続ける老人こそ、不老の特権階級である。
徒に不老長生の薬を求めたり、苦難を恐れて安逸を貪る人間は養生の道を錯誤しているものである」
そして最後を三国志の英雄曹操の言で締めくくる。

「老驥^{ろうき}に伏す 志千里に在り 烈志^{れつし}暮年^{ぼねん} 壮心^{そうしん}已まず」

村人・・・どういう意味ですか

野の仏・・・一日千里を走る駿馬が老いて厩^{うま}に伏しているのは、なお千里を走らんかためであり、雄々しい男子は
晩年になろうとも志を捨てない、の意である。人間、この士気がなければならぬ、と安岡師は結語している。人生の終焉がいつかは誰にも分からないが、その日がいつであろうと、士気をもって人生を歩むことです。

村人・・・私も玄冬の時期に入りました。この言葉を肝に命じて走ってゆきたい、 =了=